

地域がん診療連携拠点病院 <川崎市立井田病院からのお知らせ>



第49号 井田山



基本理念 「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

新年あけましておめでとうございます。旧年中に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして職員一同心より感謝申し上げます。

☆井田病院の改築は順調に進んでいます。

現在Ⅱ期工事が進行中で、平成26年度中には救急外来、内視鏡検査室等全ての診療部門と管理部門が完成し、残る工事は3号棟跡の立体駐車場と外構工事のみとなります。また高齢化が進む中、市民の皆さんのニーズに応えるため、緩和ケア病棟の増床工事も併行して行い、今年度末には、3床増えて23床になります。

☆井田病院は地域完結型の医療の提供を目指しています。

井田病院は地域の開業の先生方を含む医療機関との連携を深め、それぞれの持ち味を生かして、この地域で完結する医療を提供したいと考えています。具体的には、私たち病院が得意とする診断、手術を含めた治療の導入を担当し、症状が落ち着いた患者さんは地域の医療機関で診て戴き、症状に変化があった時や必要な定期的診療の際には再び井田病院を受診して戴くといった医療提供体制です。患者さんには地域の中で生活しながら、乏しい医療資源を有効かつ効率的に利用して戴くことが出来ます。

☆井田病院は引き続き救急医療にも力を尽くします。

市民のニーズの最も高いのは救急医療の充実であります。平成22年11月に救急病院として指定されて以来、積極的に救急医療に取り組んでまいりました。その結果、平成24年度には2981台（うち夜間・休日は1940台）の救急車を受け入れました。川崎市立川崎病院救急部の全面的協力の下に、今後も断らない救急を目指してまいります。

最後に、今年も全職員が一丸になって、皆さんに愛される病院になるべく努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年ご挨拶とさせて戴きます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

平成26年1月 病院長 長 秀男

《新任医師紹介》

検査科担当部長 出張 玲子（ではり れいこ）

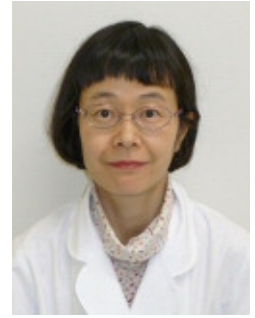
平成25年12月に病理担当部長として検査科に就任しました。現在は病理医ですが、医学部を卒業後、内科医、特に消化器内科医として5年間勤務した経験があります。一般に病理医は、患者さまに直接お会いする機会が少ない医師ですが、顕微鏡を用いて病変の診断をおこなうほか、治療薬の選択や術式の決定に関わるなど、病院での診療において重要な役目を担っています。品川部長と共に、臨床医を支える縁の下の力持ちとして努力してまいりますので、宜しくお願いいたします。

《新任医師紹介》

皮膚科部長 安西 秀美（あんざい ひでみ）

これまで井田病院皮膚科は長らく非常勤体制でしたが、この度本年1月より皮膚科常勤として就任いたしました。平成5年慶應大学卒業後、同皮膚科学教室へ入局し、途中済生会中央病院にて内科研修、近年は在宅医療・往診にも積極的に取り組んできました。

各科との連携をはかり、皮膚科としての専門性を生かし、地域医療へ貢献できますよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



《これからの季節に注意!! 冬の下痢症 ノロウイルス》

（内科医長 中島 由紀子）

感染症、特に熱帯医学、旅行医学、HIV感染症が専門です。海外での臨床研修の経験があり、英語、スペイン語での診療可能です。

ノロウイルス (Norovirus) とは、電子顕微鏡で観察される形態学的分類で SRSV (小型球形ウイルス)、あるいはノーウォーク様ウイルス “Norwalk-like viruses” という属名で呼ばれてきたウイルスです。2002年の夏、国際ウイルス命名委員会によってノロウイルスという正式名称が決定され、世界で統一されて用いられるようになりました。

感染経路

感染経路はほとんどが経口ですが、1) 患者の便や吐物を始末した人の手を介する二次感染、2) ヒトからヒトへの飛沫感染、3) 食品取扱者を介して汚染した食品を食べた場合、4) 汚染された二枚貝を生で食べた場合、5) ウイルスに汚染された井戸水を摂取した場合も考えられます。



臨床症状

潜伏期は1~2日で、嘔気、嘔吐、下痢が主症状で、腹痛、頭痛、発熱、悪寒、筋痛、咽頭痛、倦怠感などを伴うこともあります。特別な治療を必要とせず軽快しますが、乳幼児や高齢者やおよびその他、体力の弱っている者での嘔吐、下痢による脱水や窒息には注意をする必要があります。ウイルスは、症状が消失した後も3~7日間（長いときは1月）は患者の便中に排出されるため、2次感染に注意が必要です。

治療

特別な治療はありません。対症的に水分摂取を十分に行います。脱水症状がひどいときは病院での輸液が必要です。下痢止めは病気の回復を遅らせる可能性があるので使用しないことが望ましいです。

診断

糞便中のノロウイルス抗原を調べる検査キットがあります。3歳未満、65歳以上のからは健康保険が適用となります。なお、この検査では感染していても陽性にならないことがあります。PCR法という遺伝子を調べる方法がありますが、食中毒や集団感染の原因究明の目的で行政機関で行われています。

予防

手洗いが重要です。吐物など、ウイルスを含む汚染物の処理には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）などで消毒するか、85℃以上で少なくとも1分以上加熱する必要があるとされています。

《ボランティア講座・交流会》

11月20日(水) ボランティア10名、市民交流委員会より職員10名の参加で開催いたしました。ボランティア活動して気になることや疑問点などを話し合いながら和やかな雰囲気で行われました。また、再編整備の東担当課長より今後の改築工事進行予定や園芸関係のボランティア活動の影響について説明をいたしました。
(市民交流委員会)

《患者満足度調査の結果について》

平成 25 年 8 月に、患者サービスの向上と、より良い病院づくりに役立てることを目的として、アンケート方式による患者満足度調査を実施しましたので、調査結果の概要をお知らせします。

「Q. 当院の医療に満足していますか」の質問に、外来診療については 92.7%、入院診療については 93.2%の方が当院の医療について「満足」とお答えいただきました。

昨年度より満足度が若干下がったものの、概ね高い割合で満足を得ることができました。不満足の内容をよく分析・検討し、ひとりでも多くの患者さんに満足して頂ける病院になれるよう、職員一丸となって努力して参ります。

回答数 外来患者 392 人〔配布数 400 人、回答率 98.0%〕入院患者 184 人〔配布数 372 人、回答率 49.5%〕

	アンケート選択肢	外来診療に対する満足度		入院診療に関する満足度	
		回答数	有効回答率	回答数	有効回答率
満足	とても思う	100	92.7%	54	93.2%
	そう思う	199		98	
	ややそう思う	58		12	
不満足	あまりそうは思わない	14	7.3%	8	6.8%
	思わない	6		2	
	全く思わない	8		2	
	空欄	1		8	

(サービス向上委員会)

《災害医療訓練報告》

平日の午前 9 時に中原区に震度 6 弱の地震が発生という想定で、第 2 回目となる災害医療訓練を 12 月 14 日(土)午前中に実施しました。

地震発生と共に院長、副院長、事務局長の病院三役に加えて、診療部長、看護部管理室、各部門長等をメンバーとする災害対策本部を立ち上げました。病院内外の被害状況を集約し、本部長である院長を中心に病院としての対応が次々と決定されました。病院玄関前に傷病者参集との報告を受けて、本部長の指示により多数傷病者に対応する医療チームが組織され、トリアージ(病状の緊急性に応じて傷病者の治療順番を決めること:緊急治療群“赤”、非緊急治療群”黄”、治療不要もしくは軽処置群”緑”など)、安定化治療、病状観察、各部門への搬送等を行いました。

当院は市立病院として災害医療拠点の一翼を担っています。今後も訓練を繰り返し、“いざ”という時の対応のレベルアップに努めていきたいと考えています。最後に、病院はまだ改築中であることから、訓練に際し患者さんや来院者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。(救急科部長 鈴木 貴博)



～訓練に参加したスタッフの感想～

今回赤エリア(重症者エリア)の診療統括として参加しました。日頃から救急に従事している関係上、決して慣れていないとは言えない環境であるはずなのに、やはり勝手が異なります。災害時における傷病者リストの作成や各方面との連絡…。課題は多く残ったが、災害時における体制の構築の礎になることは間違いのない訓練でした。(救急科副医長 高橋 俊介)

今回赤エリア連絡担当として初めて訓練に参加しました。次々と傷病者が搬送される状況は、本番さながらの緊迫感でした。エリア内の連携と的確な情報スクリーニング、そして迅速な部門間における連絡調整の難しさを体験し、様々な課題が発見できました。円滑に対応ができるよう、課題解決に向けて取り組みたいです。(看護部担当係長 平良 香理)

市民公開講座 《申込不要・参加費無料》

『**消化器癌の予防と検診**』 講師：井田病院副院長 伊藤 大輔

日本人の約30%は癌により亡くなり、その半数は胃癌・大腸癌などの消化器癌です。こうした身近な癌が生活習慣や食生活の改善によって本当に予防が可能なのかどうか、科学的な根拠を基に概説しつつ、早期発見につながる検診の意義について解説いたします。

◆日時：平成26年2月14日（金）14時～（開場13時30分）

◆場所：ミュージア川崎 市民交流室（JR川崎駅より徒歩3分） ◆定員：100名
（問い合わせ：地域医療部 TEL 044-788-0582）

院内コンサート ひとみ座乙女文楽「二人三番叟」（人形解説付き）

◆開催場所：井田病院 正面玄関ホール

◆開演時間：平成26年1月24日（金）16時開演

どなたでも自由にお越しください！ （問い合わせ：市民交流委員会）



知って得するコーナー

年末年始の食べすぎをリセットしよう！！

（食養科・担当係長 北岡 聡子）

年末年始は忘年会、お正月、新年会などが続き、ついつい食べ過ぎ、飲みすぎになってしまいます。そろそろリセットして、食生活を見直してみませんか。

最近は断食なども話題になっていますが、**もっと簡単なリセット方法**があります。それは、**食事と食事の間隔をあけること**です。5～6時間程度、間隔をあけて、しっかりお腹をすかせて、お腹がぐーっと鳴ってから食事をするようにしてみましょう。

1度の食事量が増えてしまったという人もいるかもしれませんが、だらだらといつまでも食べていたり、小腹がすいたら、すぐ何かつまんでしまったりすることで、1日の食事量が増えてしまっていないですか？

女性は特に一回の食事量が少なく、お菓子や菓子パン、せんべいのような、すぐつまめるものをちょこちょこ食べているケースが多くみられます。血糖値が気になる方にとっては、**食事はしっかりと食べて、食事と食事の間には何も食べず、血糖値をちゃんと下げてから次の食事を食べることはとても大切です**。間食として食べているものの多くは糖質中心なので、糖質過剰の食生活になってしまいます。

1日3度の食事をしっかり食べて、良質のたんぱく質をしっかりと食べる食生活にリセットしましょう。



《清掃活動を実施しました》

職員、委託業者の協力を得て病院周辺清掃を8月28日、9月25日（雨天中止）、10月23日の昼休みに行いました。多くの職員等の協力で正面玄関前の歩道、駐車場、駐輪場周辺が大変きれいになりました。また、放置自転車も移動し駐輪場も利用しやすくなりました。

（サービス向上委員会）



発行責任者 柄崎 智

編集 川崎市立井田病院 広報委員会

住所 川崎市中原区井田2-27-1

電話 044-766-2188（代）

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/33/cmsfiles/contents/0000037/37855/ida/>